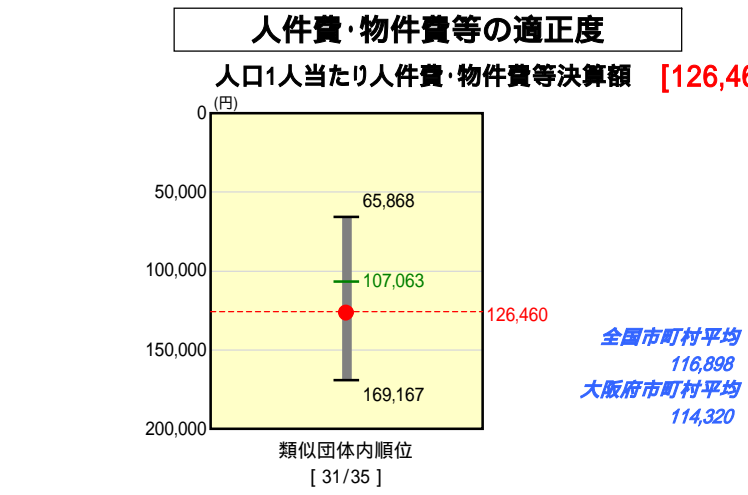
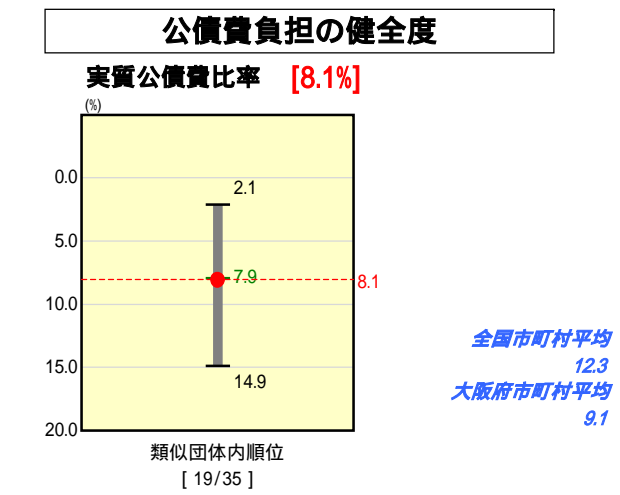
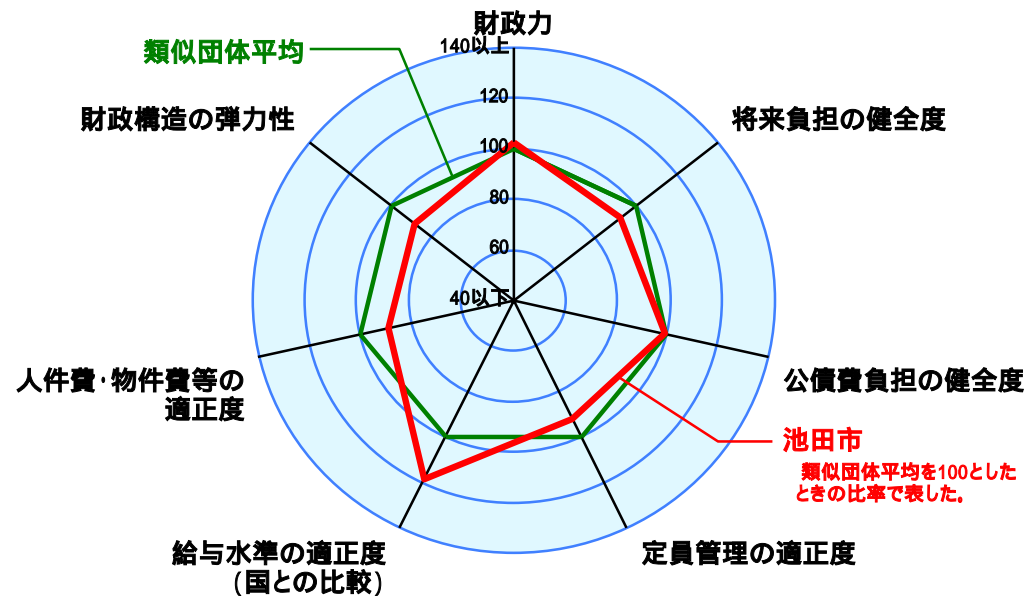
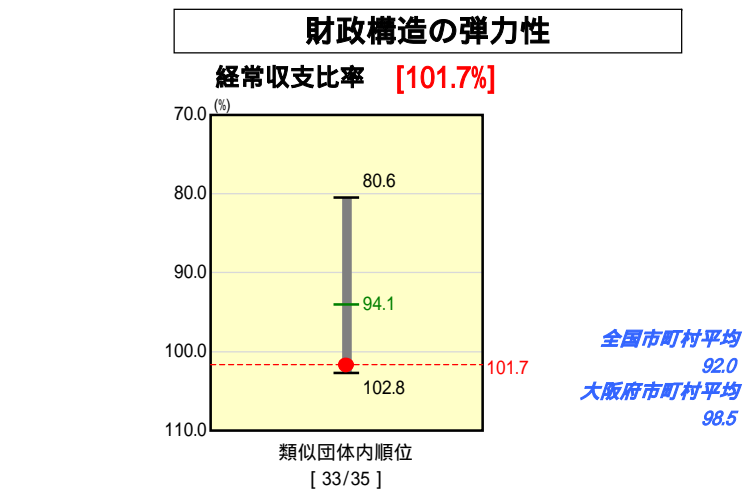
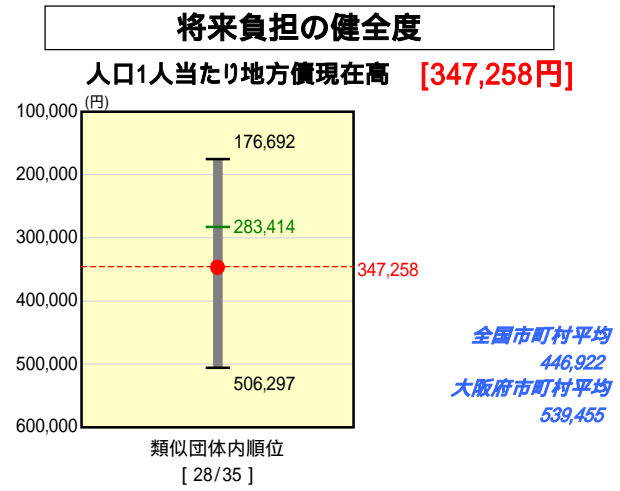
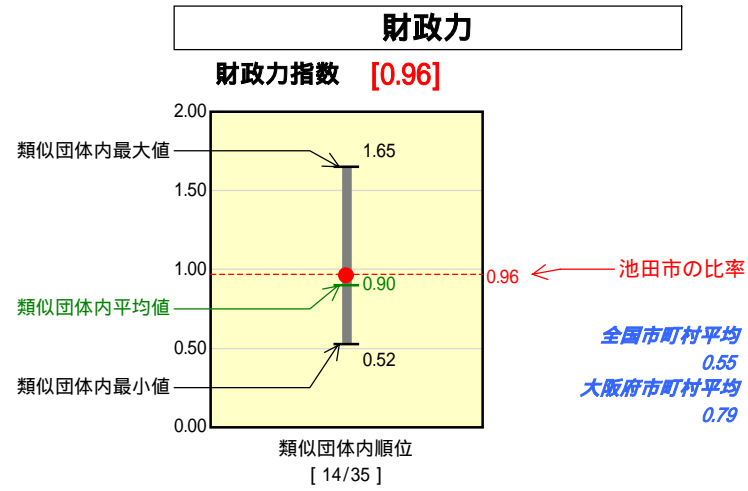


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

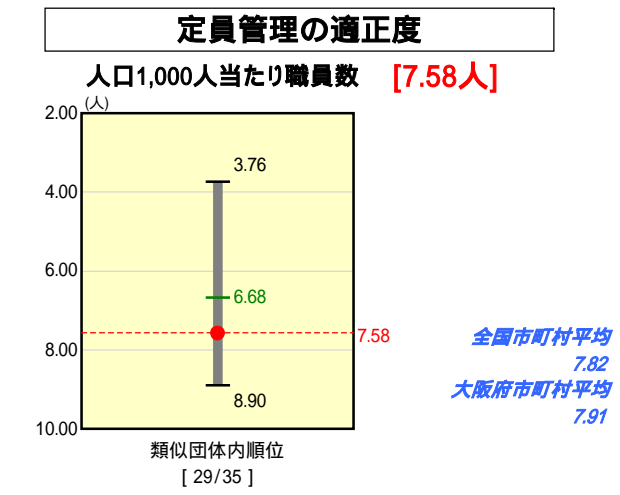
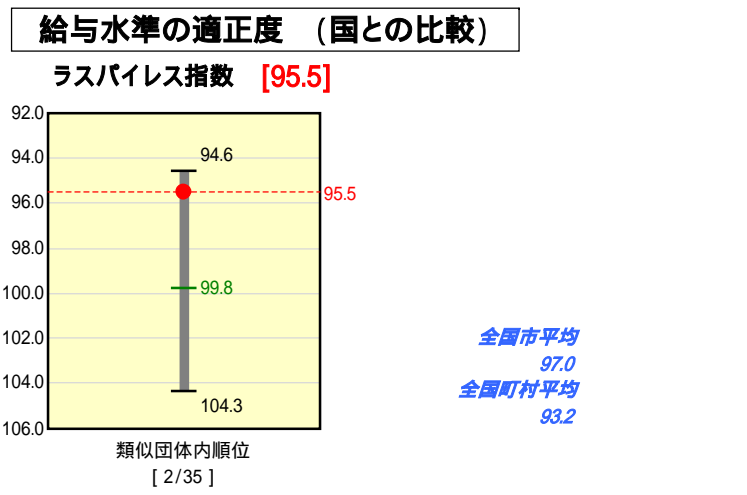
大阪府 池田市

人口	102,193 人	(H20.3.31現在)
面積	22.09 km ²	
歳入総額	35,453,979 千円	
歳出総額	35,033,608 千円	
実質収支	243,446 千円	



給与水準の適正度 (国との比較)

類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



分析欄

- 1. 財政力指数**
市税収入については、税源移譲に伴い個人市税は増加したが、その他の市税はほぼ横ばいとなっている。市税収入は景気動向に左右されるが、徴収強化などによりその確保に努めている。
- 2. 経常収支比率**
類似団体平均に比べて平均年齢が高く職員数が多いことや、地方債の元利償還金が多くピークにさしかかっていることにより、経常収支比率が押し上げられ、類似団体平均よりも高い水準となっている。
これまで行財政改革により、職員数の削減や業務の委託化など様々な歳出削減に取り組んできたが、市税収入等の経常一般財源の落ち込みが大きく、依然として100%を超える硬直した状況にある。
- 3. 人口1人当たり人件費・物件費等決算額**
給与削減の取り組みにより、ラスパイルズ指数は類似団体平均だけでなく全国市平均よりも低い水準にあるが、平均年齢が高いことや、職員数が多いなどの理由により、人口1人当たり人件費は類似団体平均より高い水準となっている。
また、各施設の維持管理経費も増加しており、人口1人当たり物件費・維持補修費も高い水準となっている。
職員数の削減といった歳出削減を通じて、類似団体平均の水準をめざす。

- 4. ラスパイルズ指数**
15年度から17年度まで、本給の削減(課長職以上5%、課長代理以下4%)や定期昇給の延伸などに取り組み、18年度からも引き続いて、20年度まで本給の削減(課長職以上2%、課長代理以下1%)を行い、また、18年度・19年度については昇給号級数の抑制を行うなどの人件費削減策を実施しており、類似団体平均よりも低い水準となっている。
- 5. 人口1人当たり地方債現在高**
類似団体平均よりは高い水準にあるものの前年度に比べて減少しており、全国市町村平均よりは低い水準にある。
近年は投資的事業を精査することにより、事業債の発行を抑制しており、今後は減少していく見込みである。
- 6. 実質公債費比率**
平成19年度の算定より都市計画税が控除財源とされるなど算定方法の変更に伴い、ほぼ類似団体平均の水準まで低下した。
近年は事業債発行を抑制しており、今後は比率が改善していく見込みである。
- 7. 人口1,000人当たり職員数**
業務の民営化など様々な分野で行政のスリム化を推進しているものの、類似団体平均を上回る水準にある。
組織の統廃合、団塊世代職員の大量退職に伴う再任用職員や民間活力の有効活用により、平成22年4月までに、企業会計を除く全職員数で、「池田市行財政システム改革プラン」に掲げている150人(17%)程度の削減をめざす